



## 2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月13日

上場会社名 株式会社ステムセル研究所 上場取引所 東  
 コード番号 7096 URL <https://www.stemcell.co.jp/corporate/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 崇文  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 茅野 圭 (TEL) 03-6811-3235  
 定時株主総会開催予定日 2026年6月24日 配当支払開始予定日 —  
 有価証券報告書提出予定日 2026年6月23日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年3月期の連結業績(2025年4月1日~2026年3月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	2,811	—	202	—	217	—	155	—
2025年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2026年3月期 154百万円(—%) 2025年3月期 一百万円(—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2026年3月期	15.44	—	5.8	2.7	7.2
2025年3月期	—	—	—	—	—

(注) 2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期の数値および対前期増減率については記載しておりません。また、自己資本当期純利益率及び総資産経常利益率は、連結初年度のため、それぞれ期末自己資本及び期末総資産額に基づいて計算しております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期	8,124	3,074	33.0	266.34
2025年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 2026年3月期 2,682百万円 2025年3月期 一百万円

(注) 2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期の数値については記載しておりません。

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	73	△744	231	2,834
2025年3月期	—	—	—	—

(注) 2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期の数値については記載しておりません。

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2025年3月期	—	25.00	—	0.00	25.00	256	—	—
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2027年3月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00		—	

(注) 2026年3月中間期より連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期の配当性向(連結)及び純資産配当率(連結)は記載しておりません。

## 3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日~2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	3,100	10.3	100	△50.7	100	△54.0	105	△32.7	10.32

### ※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 2社(社名) STEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD. 除外 1社(社名) 株式会社ミルケア

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期	10,246,600株	2025年3月期	10,246,600株
② 期末自己株式数	2026年3月期	176,412株	2025年3月期	75,112株
③ 期中平均株式数	2026年3月期	10,098,776株	2025年3月期	10,241,559株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

※ 事業計画及び成長可能性に関する事項の開示を予定している時期

次回の開示は、2026年6月下旬を予定しております

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	1
(1) 当期の経営成績の概況 .....	1
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	6
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 連結貸借対照表 .....	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	9
連結損益計算書 .....	9
連結包括利益計算書 .....	10
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	13

## 1. 経営成績等の概況

当社は、2026年3月期第2四半期（中間期）より連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度との比較分析はおこなっておりません。

### (1) 当期の経営成績の概況

当社グループは「あたらしい命に、あたらしい医療の選択肢を。」をコーポレートスローガンに掲げ、産婦人科施設との強固なネットワークを活用し、再生医療・細胞治療を目的とした「さい帯」や「さい帯血」等の周産期組織由来の細胞バンク事業を展開しております。

当社グループは、

- ・国内市場における細胞バンク事業の安定的な成長
- ・シンガポールを起点とした東南アジア市場の開拓

を成長戦略の二本柱と位置付け、中長期的な事業拡大を推進しております。

また、これらの事業基盤を活用し、再生医療・細胞治療分野における新たな治療法の開発に加え、関連領域における事業開発や投資にも取り組むことで、事業領域の拡大と収益機会の多様化を図り、グローバルかつサステナブルな成長と社会への貢献を目指しております。

#### (事業の概況について)

当社グループは、株式会社ステムセル研究所において「さい帯」や「さい帯血」等の周産期組織由来の細胞バンク事業の展開及びそれらの細胞等を利用した新たな治療法の開発を行うとともに、子会社であるSTEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD.（シンガポール）及び株式会社ミルケアの2社を通じて、海外でのさい帯・さい帯血保管事業及び当社の事業に関連する新規分野の事業を推進しております。子会社における事業の本格化により業績への寄与が拡大することから、当連結会計年度の第2四半期（中間期）より連結決算へ移行いたしました。

当連結会計年度は、保管検体数の増加に向けて、産婦人科施設との連携強化及びWEB広告運用の最適化を継続的に実施し、妊婦及びそのご家族への認知拡大を推進いたしました。また、対面チャネルとして複数のマタニティ・ベビー関連イベントへ出展し、顧客との接点拡大にも取り組みました。

2024年11月に開始した新保管プラン「HOPECELL」は、さい帯血とさい帯の両方を採取・保管することで、出産時にしか得られない細胞をより確実に保管できるサービスであり、市場への浸透が順調に進んでおります。

「HOPECELL」導入によりさい帯・さい帯血合わせた総保管数が大きく伸び、2026年3月末時点の累計保管検体数（創業以来）は11万件を超えました。保管契約の年数にわたって毎年保管料売上を計上するため、保管検体数の増加は、ストック収益として当社の安定した収益の基盤になります。

また、「HOPECELL」開始1周年を記念し、2025年12月下旬より10年保管及び20年保管プランを対象とした「保管料5年間分無料キャンペーン」を実施した結果、資料請求数が増加いたしました。

東南アジア事業においては、STEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD.を中心に、シンガポールおよびインドネシア・ジャカルタ近郊を対象とした、さい帯・さい帯血保管事業の立ち上げを推進しております。現在、最新設備を備えたCPC（細胞処理センター）およびCCC（細胞保管センター）の建設は順調に進捗しており、シンガポール保健省（MOH: Ministry of Health）への事業ライセンス申請も完了しております。引き続き、早期のライセンス取得および事業開始に向け、万全の準備を進めております。

また、これらの取り組みは、「日本・シンガポール細胞バンク・医療基盤連携推進事業」として、日本国外務省が認定する「2026年 日・シンガポール国交樹立60周年記念事業」に選定されております。これを契機として、日本とシンガポール間における医療・再生医療分野での連携強化と、アジア地域における細胞バンク事業の発展に貢献してまいります。

国内関連事業では、株式会社ミルケアにおいて、当社のさい帯保管者向けに「ファミリー上清」製造サービスを提供しています。さい帯保管者数の増加を背景に利用者数及び利用件数が着実に拡大し、2026年3月末時点で累計37件の受注を受けております。サービス提供可能な提携クリニックのネットワーク拡充も進めています。

FDA（米国の医薬品規制当局）の認可のもと米国デューク大学が実施している脳性麻痺児等を対象としたさい帯血投与プログラムにおいては、当社でさい帯血を保管されている方々の参加事例が増加しており、さい帯血を用いた治療への活用ルートとして実績が積み上がっております。

再生医療分野における臨床研究としては、大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学教室と共同で進めている「自閉症スペクトラム障害（ASD）に対する自家さい帯血有核細胞を用いた治療法の開発」に関する臨床研究が開始され、複数の患者に対しさい帯血の投与が実施されております。また、高知大学におけるさい帯血を用いた脳性麻痺の臨床研究では、これまでに投与を受けた患者において運動能力の改善などの効果が確認されています。高知大学ではさらに多くの症例を対象とした臨床研究が計画されており、さい帯血を用いた再生医療の可能性が広がることが期待されます。

株式会社iPSポータルと共同で実施している、自家さい帯血由来iPS細胞の製造・保管サービスに向けた共同研究においては、当社で20年以上の長期にわたり凍結保管していたさい帯血から良好なiPS細胞が製造でき、保管されたさい帯血がソースとして優れていることを確認しております。2026年3月開催の再生医療学会でその成果が発表されました。

さらに、2025年12月には、学校法人国際医療福祉大学医学部眼科学教室および医療法人社団栄和会との間で、さい帯間葉系細胞由来培養上清を用いた新たな眼疾患治療の開発に関する共同研究契約を締結しました。本研究では、角膜上皮障害に対する有効性の検証を行い、将来的な臨床応用に向けた基礎的知見の獲得を目指しております。

これらの活動の結果、当連結会計年度における売上高は2,811,344千円、営業利益は202,657千円、経常利益は217,447千円、親会社株主に帰属する当期純利益は155,917千円となりました。

売上高につきましては、国内事業が堅調に推移したことにより、過去最高\*を更新いたしました。一方で、将来の事業拡大を見据えた人員増強および賃金改定に伴う人件費の増加に加え、原材料価格の上昇等により、売上原価は増加いたしました。また、現在最も注力しているシンガポール子会社における事業立ち上げ費用の影響により、販売費及び一般管理費も増加しております。これは、競合他社の動向等も踏まえ、今後の市場開拓に向けた重要な投資局面と位置付け、先行的な投資を実施していることによるものです。

なお、当社グループは単一セグメントのため、セグメントごとの記載を省略しております。

\*当社は2026年3月期第2四半期（中間期）より連結財務諸表の作成を開始したため、「過去最高」は、連結前の当社単体の経営成績との比較によるものです。

#### （株主還元について）

当社グループは、2025年11月に、株主還元の充実を目的として株主優待制度を新たに導入することを公表しました。本制度は、初回の基準日を2026年3月末日とし、当社株式1単元（100株）以上を保有する株主の皆様へデジタルギフト（3,000円分）を進呈するものです。株主優待制度導入が、多くの方に当社グループに関心を持っていただくきっかけとなり、2026年3月末の株主数は、1年前に比べ2倍以上に増加しました。

今後も、事業成長に向けた積極的な投資を継続しつつ、株主の皆様への還元を重要な経営課題の一つと位置づけ、当社にふさわしい還元手段及び水準の検討をさらに進め、株主還元の一層の充実を図ってまいります。

## (2) 当期の財政状態の概況

## (資産)

当連結会計年度末における資産合計は8,124,841千円となりました。このうち流動資産は5,313,624千円となりました。主な内訳は、現金及び預金2,834,134千円、売掛金2,337,026千円であります。また固定資産は2,811,216千円となりました。内訳は有形固定資産1,375,042千円、無形固定資産225,619千円、投資その他の資産1,210,554千円であります。

## (負債)

当連結会計年度末における負債合計は5,050,360千円となりました。このうち流動負債は4,532,174千円となりました。主な内訳は、さい帯血・さい帯保管サービスの顧客からの前受金が4,127,448千円であります。固定負債は518,186千円となりました。主な内訳は長期借入金377,061千円であります。

## (純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は3,074,480千円となりました。うち利益剰余金が1,595,391千円、自己株式が200,138千円、連結子会社に係る非支配株主持分が392,434千円であります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、2,834,134千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュフローは、73,509千円の増加となりました。これは主に、税引前当期純利益を217,786千円計上したこと及び保管検体数の増加に伴い前受金が351,303千円増加した一方、売上債権が496,348千円増加したことによるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュフローは、744,565千円の減少となりました。これは主に、シンガポールにおける新規施設への投資および日本における細胞保管設備の充実のための有形固定資産の取得による支出409,286千円、日本における基幹システム刷新等のための無形固定資産の取得による支出117,541千円、投資有価証券の取得による支出200,000千円があったことによるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュフローは、231,558千円の増加となりました。これは主に、シンガポール子会社への非支配株主からの払込による収入406,645千円があった一方、自己株式の取得による支出106,008千円があったことによるものであります。

#### (4) 今後の見通し

当社グループは、中長期の持続的な業績拡大に向けた中期経営計画を策定し、本日付でプレスリリース「中期経営計画の策定に関するお知らせ」を公表いたしました。当該計画において、2030年3月期に向けて国内事業の売上を着実に拡大するとともに、海外事業における収益基盤を確立してまいります。

この中期経営計画の達成に向け、「国内事業基盤の強化」「海外展開の推進」「臨床応用・利用拡大」の3つを重点戦略として推進してまいります。

##### 1. 国内事業基盤の強化

将来的には現在の約2.5倍にあたる年間保管検体数20,000検体（出生率の3%）をめざしております。この目標に向け、医療機関との連携の一層の強化、Web・SNSを活用したオンラインマーケティング、リアルイベントの全国展開等を推進してまいります。さらに「保管料5年分無料キャンペーン」を2026年6月まで実施し、資料請求数及び成約率の向上を図ってまいります。

また、基幹システムの老朽化対応及び業務効率化のため、かねてより準備を進めてきたシステムのリプレースを2027年3月期に実施する予定です。

##### 2. 海外展開の推進

STEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD. のCPC（細胞処理センター）及びCCC（細胞保管センター）について、2026年5月中に完成・引渡しの後、MOH（保健省）の事業許可を得て2027年3月期半ばの稼働開始を予定しております。今後は、まずシンガポール及びインドネシア・ジャカルタ近郊を中心にマーケティング活動を本格化させるとともに、中期的には東南アジア全域への展開を進めてまいります。

東南アジア地域では、所得水準の上昇や健康意識の高まりを背景に、さい帯・さい帯血保管市場の拡大が見込まれており、同市場は2032年まで年平均成長率約16.8%で成長するとの推計\*もあります。当社グループは、最先端設備と日本品質による安全性・信頼性を強みに、シンガポールを起点として、東南アジア地域において存在感のあるプレイヤーとなることを目指してまいります。シンガポール（想定市場規模6,000件/年）およびインドネシア（想定市場規模3,000件/年）においては、将来的に50%のシェアを獲得することを目標としています。

\*Credence Research社による推計

##### 3. さい帯・さい帯血の臨床応用・利用拡大

再生医療領域においては、大阪公立大学及び高知大学におけるさい帯血を用いた臨床研究、米国デューク大学による脳性麻痺児等へのさい帯血投与プログラムへの支援を継続してまいります。

さらに、大学等との共同・協力による先進的な研究開発・臨床研究にも継続的に取り組んでおります。具体的には、国際医療福祉大学医学部眼科学教室及び医療法人社団栄和会と共同で、さい帯間葉系細胞由来培養上清を用いた新たな眼疾患治療の開発を進めております。

また、医療機関と連携し、さい帯・さい帯血を利用した第二種再生医療等提供計画の具体化に向けた取り組みも推進しております。

加えて、株式会社iPSポータルと共同で、自家さい帯血由来iPS細胞の製造・保管サービスの実用化に向けた検討を進めるほか、さい帯由来培養上清液の美容・自由診療領域での利用拡大にも取り組み、保管細胞の活用機会拡大を図ってまいります。

これらの研究開発の進展により、保管した細胞の活用領域は今後さらに拡大していくものと考えております。従来、さい帯・さい帯血保管は「万一の場合に備えた将来への備え」として認識される側面がありましたが、今後は再生医療や自由診療等における具体的な活用を前提とした保管ニーズへと変化していくことが期待され、これに伴い保管需要のさらなる拡大を見込んでおります。

以上により、2027年3月期の連結業績につきましては、売上高3,100百万円、営業利益100百万円、経常利益100百万円、親会社株主に帰属する当期純利益105百万円を見込んでおります。売上高は引き続き過去最高を更新する見込みです。単体での各段階の利益は2026年3月期比で増益となる見通しですが、引き続き海外事業の立ち上げに伴い先行的な費用負担が発生し、連結ベースの利益につきましては減益を見込んでおります。

現在進めている戦略的な投資の成果が現れてくる2030年3月期（中期経営計画の最終年度）には、連結売上高

5,500百万円、連結営業利益1,000百万円を目指してまいります。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、財務諸表の企業間の比較可能性を考慮し、当面は日本基準で財務諸表を作成する方針です。なお、IFRS（国際財務報告基準）の適用については国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針です。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	2,834,134
売掛金	2,337,026
原材料及び貯蔵品	54,021
前渡金	971
前払費用	42,845
その他	50,053
貸倒引当金	△5,429
流動資産合計	5,313,624
固定資産	
有形固定資産	
建物	759,826
工具、器具及び備品	791,096
土地	418,176
リース資産	40,878
建設仮勘定	152,133
減価償却累計額	△787,068
有形固定資産合計	1,375,042
無形固定資産	
ソフトウェア	21,025
ソフトウェア仮勘定	202,931
商標権	1,661
無形固定資産合計	225,619
投資その他の資産	
投資有価証券	830,135
役員に対する長期貸付金	133,050
長期前払費用	2,327
繰延税金資産	68,128
その他	176,912
投資その他の資産合計	1,210,554
固定資産合計	2,811,216
資産合計	8,124,841

(単位：千円)

当連結会計年度  
(2026年3月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	33,974
未払金	126,984
未払費用	26,480
1年内返済予定の長期借入金	63,048
未払法人税等	41,647
前受金	4,127,448
リース債務	7,823
預り金	4,296
賞与引当金	65,387
株主優待引当金	18,118
その他	16,966
流動負債合計	4,532,174
固定負債	
長期借入金	377,061
役員退職慰労引当金	50,708
リース債務	25,876
資産除去債務	64,540
固定負債合計	518,186
負債合計	5,050,360
純資産の部	
株主資本	
資本金	704,805
資本剰余金	596,939
利益剰余金	1,595,391
自己株式	△200,138
株主資本合計	2,696,998
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△32,786
為替換算調整勘定	17,833
その他の包括利益累計額合計	△14,953
非支配株主持分	392,434
純資産合計	3,074,480
負債純資産合計	8,124,841

## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	2,811,344
売上原価	1,099,157
売上総利益	1,712,187
販売費及び一般管理費	1,509,529
営業利益	202,657
営業外収益	
受取利息	20,687
為替差益	302
雑収入	1,605
営業外収益合計	22,596
営業外費用	
支払利息	5,448
支払手数料	795
雑損失	1,563
営業外費用合計	7,807
経常利益	217,447
特別利益	
固定資産売却益	550
特別利益合計	550
特別損失	
固定資産除却損	211
特別損失合計	211
税金等調整前当期純利益	217,786
法人税、住民税及び事業税	89,131
法人税等調整額	△2,352
法人税等合計	86,778
当期純利益	131,007
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△24,910
親会社株主に帰属する当期純利益	155,917

## 連結包括利益計算書

(単位：千円)	
当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)	
当期純利益	131,007
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△12,135
為替換算調整勘定	35,174
その他の包括利益合計	23,039
包括利益	154,046
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	161,123
非支配株主に係る包括利益	△7,076

## (3) 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	704,805	589,805	1,448,019	△94,130	2,648,500
当期変動額					
親会社株主に帰属する 当期純利益			155,917		155,917
自己株式の取得				△106,008	△106,008
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		7,133			7,133
連結範囲の変動			△8,545		△8,545
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	7,133	147,372	△106,008	48,497
当期末残高	704,805	596,939	1,595,391	△200,138	2,696,998

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計 額合計		
当期首残高	△20,651	—	△20,651	—	2,627,849
当期変動額					
親会社株主に帰属する 当期純利益					155,917
自己株式の取得					△106,008
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動					7,133
連結範囲の変動					△8,545
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△12,135	17,833	5,698	392,434	398,133
当期変動額合計	△12,135	17,833	5,698	392,434	446,630
当期末残高	△32,786	17,833	△14,953	392,434	3,074,480

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前当期純利益	217,786
減価償却費	156,757
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,136
賞与引当金の増減額 (△は減少)	461
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	11,596
受取利息及び受取配当金	△20,687
支払利息	5,448
固定資産除却損	211
売上債権の増減額 (△は増加)	△496,348
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,041
仕入債務の増減額 (△は減少)	9,048
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	18,118
未払金の増減額 (△は減少)	3,324
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△8,522
前受金の増減額 (△は減少)	351,303
その他	△2,735
小計	243,857
利息及び配当金の受取額	19,516
利息の支払額	△5,507
法人税等の支払額	△184,356
営業活動によるキャッシュ・フロー	73,509
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
投資有価証券の取得による支出	△200,000
有形固定資産の取得による支出	△409,286
無形固定資産の取得による支出	△117,541
敷金及び保証金の差入による支出	△21,691
その他	3,954
投資活動によるキャッシュ・フロー	△744,565
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△63,048
リース債務の返済による支出	△5,812
自己株式の取得による支出	△106,008
配当金の支払額	△218
非支配株主からの払込みによる収入	406,645
財務活動によるキャッシュ・フロー	231,558
現金及び現金同等物に係る換算差額	35,174
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△404,322
現金及び現金同等物の期首残高	3,238,457
現金及び現金同等物の期末残高	2,834,134

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社の事業セグメントは、細胞バンク事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	266.34円
1株当たり当期純利益	15.44円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	155,917
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	155,917
普通株式の期中平均株式数(株)	10,098,776